



よしの もり 吉野の森って スゴスギー



スギじい



きいぼう

きいぼうは、森に住む不思議な生きもの。好奇心旺盛なきいぼうは、ある日、吉野地域の森がスゴイと聞いて、スギじいのもとにやってきました。



スギじいに教わった
森のこと、キミは
覚えているかな？

スゴスギー クイズ

Q1 金峯山寺の仏様は何色をしている？

A1
きんいろ
金色

A2
あかいろ
赤色

A3
あおいろ
青色

Q2 わりばしはなぜ生まれた？

A1
木の枝を
拾った
から

A2
木の端を
かつよう
活用する
ため

A3
カップ
ラーメンを
食べるため

Q3 昔から吉野地域の鬼が助けていたのは誰？

A1
スギじい

A2
修行を
する人

A3
森の動物

Q4 吉野杉がまっすぐ育つための植え方はどれ？

A1
間を
あけずに
植える

A2
添え木を
する

A3
上から
引っ張る

吉野地域の食も スゴスギー

昔から伝わる食べ物も森との関わりが深い。塩サバをご飯の上のせたひとくちサイズの寿司は、防腐効果のある柿や朴の葉っぱで包んで日持ちがするように考えられた。葉っぱの香りもさわやかで、今でも郷土料理として親しまれている。めはり寿司は、山仕事をする時のおむすび。大きくにぎってパワーをつけていたようじゃ。



朴の葉ずし

熊野の漁師が、塩でしめたサバを山に売りに来たのが始まり。下市町・黒滝村・天川村・東吉野村などに伝わるお祝い料理。

柿の葉ずし

吉野川に沿った地域を代表する寿司。柿の葉でひとくち大のサバ寿司を包んで押した夏祭りのごちそう。

春まなのめはり寿司

下北春まなは、下北山村の気候でしか育たない名産品。漬物で包んだおにぎりが“目を見張るほど”大きかったことが名前の由来。



葉っぱで
つつ
包むのが
ミソじゃ

日本遺産とは？

日本には、各地域ごとにさまざまな歴史や伝承、風習が残っています。それを1つのテーマに沿ったストーリーとしてまとめ、文化庁が「日本遺産」に認定することで、他の地域に住む人々や海外から来る旅行者にも、広く知ってもらおうという取り組みです。認定されるストーリーは、その地域特有であることや、今まであまり知られていなかった興味をひく内容かどうか重視されるので、自分の住むまちのことを、より深く知るきっかけにもなります。吉野地域の次は、全国の日本遺産も調べてみよう。

吉野地域の日本遺産

森に育まれ、森を育んだ人々の暮らしとところ
～美林連なる造林発祥の地“吉野”～

奈良県吉野地域は、日本で初めて造林を始めた地。約500年にわたって造林技術を培ってきたので、吉野材は全国有数の美しい木材として有名になりました。それと同時に、神仏と仰ぐ山の天然林も大切にされ、森と共に生きてきた人々の生活文化がたくさん残されています。

このマークが
めじるし
目印だよ



日本遺産 ポータルサイト



吉野地域の
日本遺産のことを
もっと詳しく知ろう

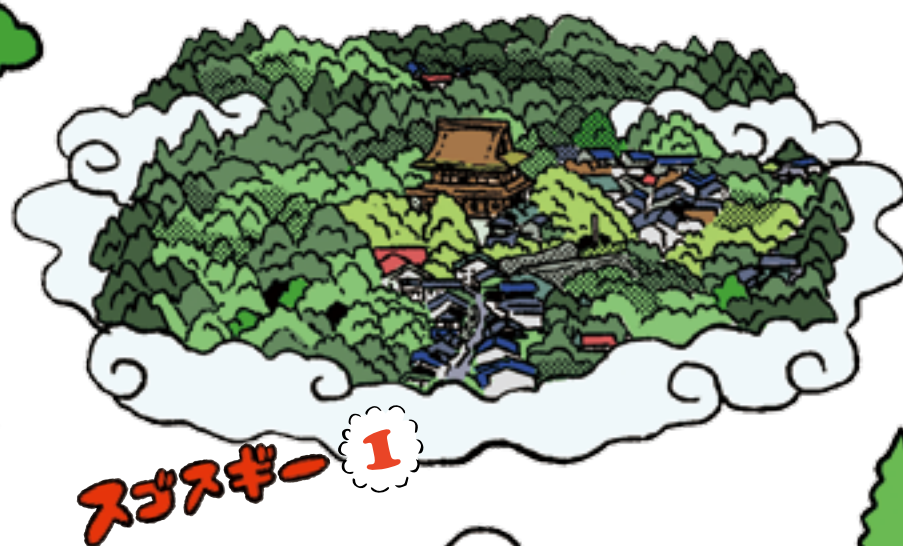


スゴスギ
だなぁ...



特設サイト

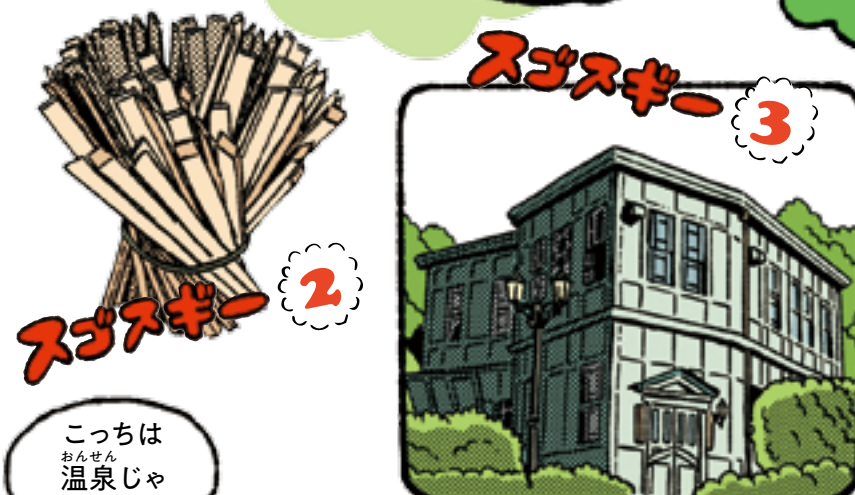
このマークがめじるし目印だよ



もり はくく なななき やつぽ
森を育む七滝八壺



よしの もり
吉野の森を
たんけん
じゃ



こっちは
おんせん
温泉じゃ
ないよ



よしの ちいき
吉野地域の
おもちといえば栃餅

スゴスギー 3

こんな山の中に!?と誰もが驚くおしゃれな洋館。明治43年、林業に関わる黒滝村の人たちが大金をかけ、村の木材で造った。当時は吉野材が飛ぶように売れていた時代。都会との交流もさかんだったので、おしゃれなデザインをいち早く取り入れることができた。大正2年からは黒滝村の役場として活用され、現在は資料館となっている。歴史を物語る建物として念入りに修理をし、保存されているんじゃ。

みんなの夢が山の中に残っているんじゃ。



日本遺産 黒滝村
黒滝村旧役場庁舎

スゴスギー 1

吉野山にある金峯山寺には、特別な日にしか見ることができない3体の仏様がいらっしゃる。ご開帳の日にお参りに行くと、扉の中におさめられた高さ約7mのとても大きな仏様を見ることができる。真つ青な顔と体、足をふり上げ、髪の毛を立てて、怒ったような顔がド迫力!でも、これは決してこわがらせようとしているのではない。優しい仏様が、人々の心を強くするために、仮の姿で現れたものなんじゃ。



青い秘仏は、実は怒ってないんじゃ。

日本遺産 吉野町
金峯山寺本堂

スゴスギー 4

吉野地域の山には、古くから神様・仏様がいてと言われ、修行をする場所になってきた。大自然の中に入って祈りを捧げると、人間が本来持っている広い心を取り戻すことができる。山は神聖な場所だから、入る前には心身を清めることが必要。天川村の龍泉寺にある池は、昔、修験道の開祖である役行者が水行をし、それが寺の始まりと伝えられている。今も、まずはここで水行をして山に向かうんじゃ。

迷った時は、山にこもって修行じゃ。



日本遺産 天川村
龍泉寺

スゴスギー 2

わりばしは、吉野杉を使いきるために生まれたんじゃ。

下市町はわりばしが生まれたまち。江戸時代~明治時代、酒樽をつくるときに吉野杉がたくさん活用されていた。樽に使う板を取った後に、余ってしまった切れ端を捨てるのはもったいない、なんとか利用できないかと考えられ、わりばしに加工する技術が発達した。つるつとした肌ざわり、美しい木目と香りがある吉野杉のわりばしは、「よしのの杉ばし」と親しまれ、今も高級な料亭などで重宝されているんじゃ。

日本遺産 下市町
割箸製作技術



スゴスギー 7

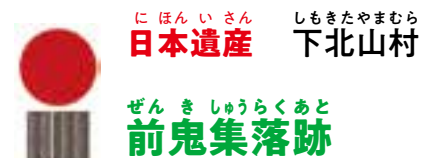
奈良から和歌山の海へと続く全長 136km の吉野川・紀の川。上流をたどっていくと、川上村の森の奥に行き着く。豊かな雨によって育まれたこの森は、なんと500年以上前から手つかずのまま。今も、ブナ、モミ、トガサワラなどの貴重な樹木や生態が残されている。先人たちが守ってきたこの大切な資源を受け継ぎ、未来へ手渡さなければならない。そう考えた村が買い取ることにし、「水源地の森」と名付けたんじや。



東京ドーム約160個分の森を、村が買い取ったんじや。



鬼は人に災いをもたらすこわいものと思われているけれど、吉野地域ではまったく正反対。人間を助けてくれるものなのだ。今から約1300年前、山で修行をする役行者に仕えた前鬼と後鬼という夫婦がいた。その夫婦から生まれた5人の子どもも、山の中に宿坊を建てて、修行をするひとびとへの世話をしてきた。そして、下北山村の前鬼という場所には今もひとつだけ宿坊が残り、鬼の子孫が行者を迎えているんじや。

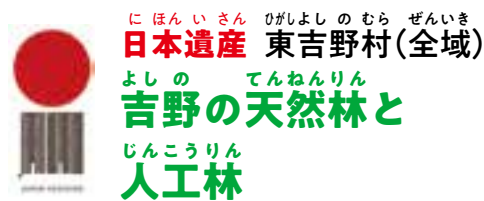


スゴスギー 5

吉野地域では、鬼はこわくないものなんじや。



東吉野村は村の95%が山林で、昔から吉野林業の中心地として栄えてきた。間をあけずに苗を植え、70~80年かけて間伐を繰り返しながら木を育てるという方法で、まっすぐで、節がなく、色つやの良い木材を生み出す。吉野地域の職人さんたちが長い間守ってきたこの技術によって、吉野杉は良質な木材として全国で有名になった。また、神仏の通り道である山のてっぺんには木を植えなかったもので、そこには天然林が残っているんじや。

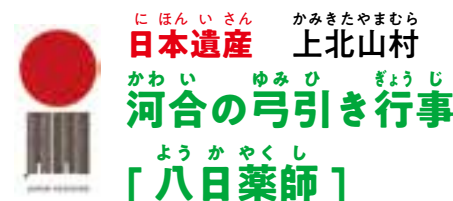


スゴスギー 8

「まっすぐ、節なし、色つや良し」は吉野杉だけじゃ。



吉野地域の主な産業である林業は、山に入って木を切る危険を伴う仕事。この仕事の安全を祈るため、上北山村では、年に一度「河合の弓引き行事」が続けられている。資料は残っておらず、おじいさんからお父さんへ、お父さんから息子へと口伝えで教えられてきた。昔と同じ方法で、柳の枝を焼いて作った墨で的が描かれ、中心に向かって弓を射る。見事命中すれば、墨が飛び散り拍手が鳴り響くんじや。



スゴスギー 6

江戸時代から、口伝えで受け継がれてきたんじや。

